

microphylla Nakai & Kikuchi in Bot. Mag. Tokyo **33**: 199 (1919).

Voucher and other specimens examined: JAPAN. Honshu, Yamanashi Pref.: Fujikawaguchiko-machi, near the summit of Mt. Mitsutoyeyama (N. Watanabe 03033, 22 July 2003, TNS; H. Iketani, N. Mase & N. Watanabe 3572, 3573, 7 Sept. 2004, TNS); Yamanakako-mura, Hirano (H. Iketani, N. Mase & N. Watanabe 3574, 7 Sept. 2004, TNS); Mt. Fuji (T. Makino s. n., 1920, MAK 225855). Mt. Mitsutoyeyama (S. Okuyama s. n., 5 June 1949, TNS 80485, 80486). Shizuoka Pref.: Mt. Fuji, Ipponmatsu (A. Kikuchi nos. 1–4, 12 June 1918, TI; Yamade s. n., July 1918, TI).

Recently, wild populations of *Pyrus ussuriensis* Maxim. var. *hondoensis* Rehd. were thought to be extinct in and around Mt. Fuji. Recently, a few wild trees are found around the summit of Mt. Mitsutoyeyama and near the Lake

Yamanaka-ko in the Mt Fuji area.

本研究の現地調査は農林水産ジーンバンク事業植物部門の国内探索収集として行われた。

本研究にあたり、入林許可を頂いた山梨県富士河口湖町及び山梨県吉田林務環境部、および所蔵標本の閲覧を許可頂いた標本館に感謝いたします。

引用文献

- Iketani H. and Ohashi H. 2003. Taxonomy and distribution of Japanese populations of *Pyrus ussuriensis* Maxim. (Rosaceae). J. Jpn. Bot. **78**: 119–134.
 松山 篤. 1930. 本土産野生梨アヲナシに就いて. 千葉高等園藝学校戸定會學術彙報 **1**: 17–27, pls. 1–12.
 (農業・生物系特定産業技術研究機構果樹研究所,
 山梨県植物研究会)

福島県にイトイバラモを記録する (薄葉 満)

Mitsuru USUBA: A New Record of *Najas yezoensis* Miyabe (Najadaceae) for Fukushima Prefecture, Japan

イトイバラモは, Miyabe and Kudo (1931) によって記載された沈水性の水生植物で, 北海道と本州にまれに分布する日本固有種である. 本州では, 青森, 秋田, 山形, 神奈川各県に記録があるがそれぞれ生育地は限られ, 環境庁レッドデータブック (2000) では絶滅危惧 IA 類 (CR) にランクされている. これまで福島県には記録がなかったが, 筆者は 2000 年 8 月に耶麻郡北塩原村の檜原湖から本種を採集した.

檜原湖は, 奥羽山地の標高 819 m の高原上に位置し, 面積約 10 km², 最大水深 31 m に及ぶ貧栄養湖である. 1888 年に磐梯山が噴火し, その岩屑流によって河川が堰き止められてできたもので, 湖としては歴史が浅い. 南側の泥流地形上にはアカマツ林, 東側の平坦地には耕地や草原もあるが, 周囲の大部分はブナ, ミズナラ林に被われている. 1931 年 7 月の吉村信吉による観測では, 表層水の温度は 19.1 °C, pH は 6.6, 透明度は 7.5 m であった (福島県 1966) が, 2002 年 7 月の福島県

生活環境部による観測では, 湖北部における水温は 19.3 °C, pH は 7.1, 透明度は 5 m とされている (福島県生活環境部 2004). 湖岸線は入り江が多く, 最北岸, 中央部東西岸および最南端の西岸に遠浅な部分があり, そこに沈水植物を主とした水生植物群落が発達している.

2000 年 8 月 25 日, 檜原湖北岸の金山地区を調査した折, 水深 0.3–1 m の湖底から, 草高 5–15 cm の多分枝するイバラモ科植物を採集した (Fig. 1). ホッスモに似ているが, 全体深い緑色で葉鞘の上端が耳状に突出せず, 種子表面の網目模様が縦長であることからイトイバラモと同定した. しかし, 慎重を期して, その後東洋実業株式会社植物研究部の野口達也氏に標本を送り, イトイバラモに相違ないことを確認していただいた. 2002 年 9 月 12 日には, 北部の金山地区, 檜原地区および中央部西岸の細野地区の浅瀬などでも確認され, 湖の広い範囲に生育していることが分かった (Fig. 2). 生育場所の湖底は礫質から砂泥質

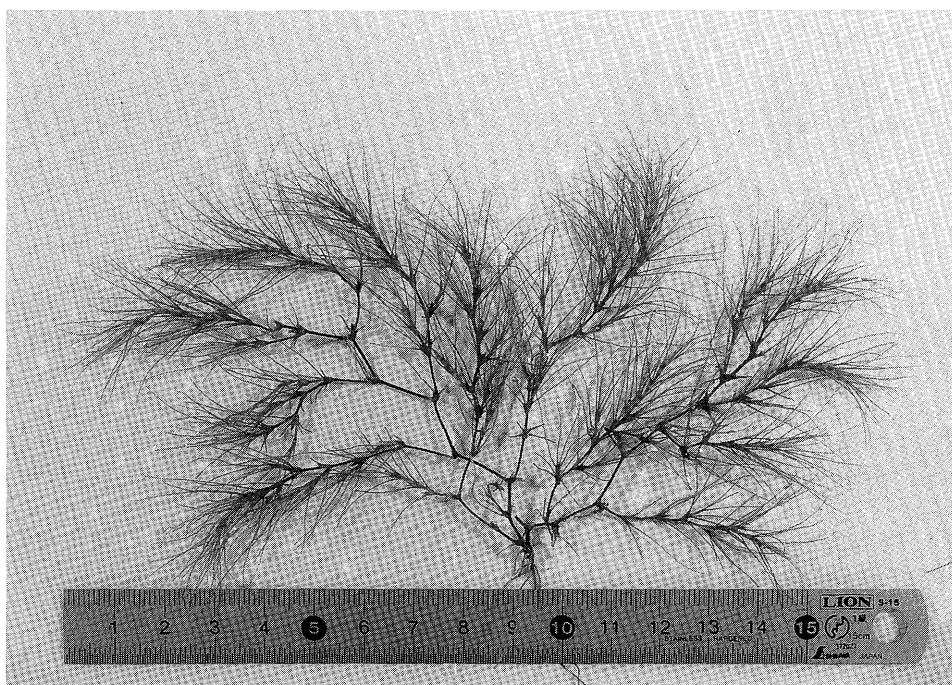


Fig. 1. *Najas yezoensis* Miyabe from the Hibara-ko Lake (Sept. 12, 2002).

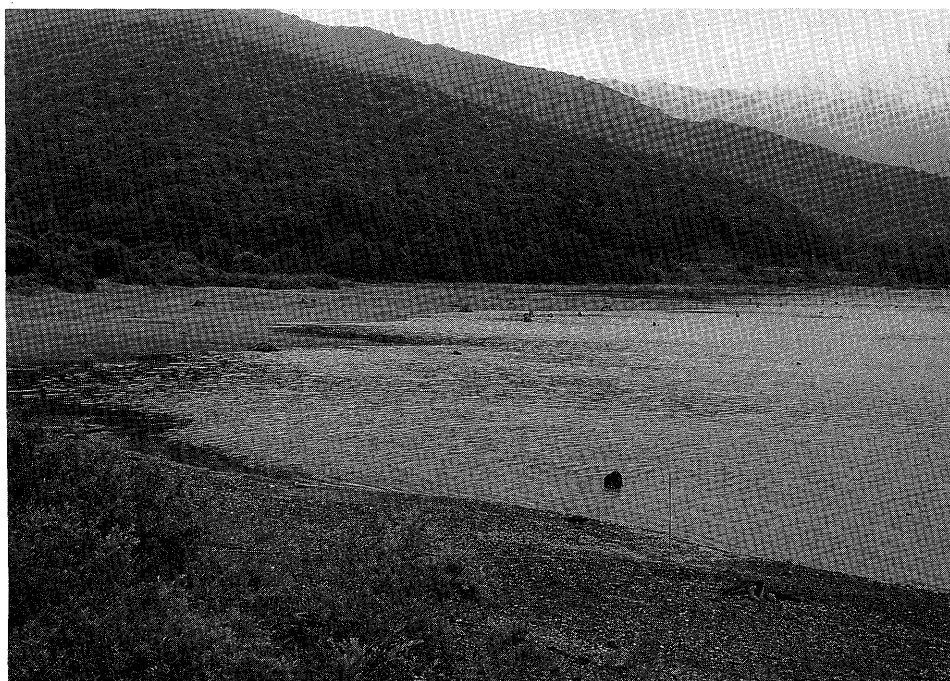


Fig. 2. A northeastern shoal of the Hibara-ko Lake (Sept. 12, 2002).

におよび、個体数の合計は1,000以上と推定された。それらの区域では、ほかにセキシウモ、クロモ、コカナダモ、ヒルムシロ、エゾノヒルムシロ、ヒロハノエビモ、ヒメホタルイ、マツバイ、ミゾハコベなどの水生植物がみられた。

環境庁レッドデータブック(2000)によれば、イトイバラモの生育について情報が得られた7メッシュ(1メッシュは25,000分の1地形図1枚)のうち、自生が確認されたのはわずか4メッシュで、それぞれ数十個体とされているから、檜原湖は、現時点における日本最大級の生育地ではないかと思われる。しかしながら、一帯は福島県有数の観光地であるばかりでなく内水面漁業もおこなわれており、コカナダモの蔓延に象徴されるように、少なくとも湾状部の浅瀬では少しずつ富栄養化が進んでいるように思われる。したがって、水質や生物相の定期的なモニタリングおよび保全の配慮が強く望まれるところである。

これを機に私蔵の標本を再確認したところ、檜原湖のイトイバラモは、すでに1981年9月に北部西岸の檜原地区から、筆者自身の手で採集されていることがわかった。当時は、青森県以南の分布が想定されなかったため、詳細な比較検討を経ぬままホッスモと誤認していたものである。福島県植物誌(1987)における北塩原村のホッスモの記録は、当該標本を基にしたものであるから、それはイトイバラモに訂正されなければならない。このほか、すでに絶滅してはいるが、1975年には双葉郡広野町二つ沼、1978年には西白河郡東村新田池からも採集していたことがわかった。それ

らは、緯度の割に低海拔である点が特異的である。

なお、標本は東北大学大学院理学研究科生物学教室(TUS)、東京大学理学部植物学教室(TI)および京都大学理学部植物学教室(KYO)に寄贈する予定である。

Najas yezoensis Miyabe in J. Fac. Agr. Hokkaido Imp. Univ. **26**(2): 97 (1931).

Specimens examined: Japan, Honshu, Fukushima Pref., Yama-gun, Kita-shiobara-mura, Hibara-ko Lake, 140°2'20"E, 37°42'N, alt. 819 m, Sept. 7, 1981, M. Usuba 11596; 140°3'00"–25"E, 37°43'23"–38"N, Aug. 25, 2000, M. Usuba 18801; 140°2'50"E, 37°40'30"N, Sept. 12, 2002, M. Usuba 19185; Futaba-gun, Hironomachi, Futatsu-numa Pond, 141°0'10"E, 37°13'58"N, alt. 40 m, Aug. 17, 1975, M. Usuba 4640; Nishishirakawa-gun, Higashi-mura, Shinden-ike Pond, 140°20'01"E, 37°5'55"N, alt. 280 m, Aug. 20, 1978, M. Usuba 8898a.

引用文献

- 福島県(編) 1966. 福島県史第25巻各論編11(自然・建設). pp. 202–203. 福島市.
福島県生活環境部 2004. 平成14年度水質年報. pp. 185–186. 福島市.
福島県植物誌編さん委員会 1987. 福島県植物誌. p. 168. いわき市.
環境庁自然保護局野生生物課(編) 2000. 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物(レッドデータブック) 8. 植物1(維管束植物) 660 pp. 東京.
Miyabe K. and Kudo Y. 1931. Flora of Hokkaido and Saghalien. J. Fac. Agr. Hokkaido Imp. Univ. **26**(2): 97–99.
(970-福島県いわき市)